

令和元年度宇城市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和2年2月5日(水) 13時31分～15時00分
- 2 場 所 宇城市役所 新館1階 第3会議室北側
- 3 出席者 守田市長、平岡教育長、村田教育委員、藤田教育委員
佐伯教育委員、石井教育委員、河野委員
- 4 事務局 市長部局 成松総務部長
教育部 吉田部長、豊住部次長、井住教育総務課長
竹内生涯学習課長、宮本スポーツ振興課長
木下学校給食課長、井澤中央図書館長
志水指導主事、中川指導主事、村田教育総務課係長
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 協議事項
 - (1) 宇城市学力向上対策について
 - ①学力調査等の結果について
 - ②熊本の学びの推進プランについて
 - (2) その他
 - (4) 意見交換会
 - (5) 閉 会

<教育総務課長>

ただいまから令和元年度宇城市総合教育会議を開会いたします。

司会進行は教育部教育総務課長の井住が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、守田市長が御挨拶を申し上げます。

<市長>

こんにちは。今日はお忙しい中、令和元年度宇城市総合教育会議に御出席いただき誠にありがとうございます。日頃より宇城市の教育行政に御尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、今年度は子育て施策や教育環境を充実させることにより、市内外の方々から選ばれ、住み続けていただくまちを目指すべく、教育分野については重点的に取り組んでまいりました。教育の関係では小中学校の特別教室にエアコンの設置、小中学校ICT教育環境整備、不知火小学校及び松橋中学校施設の建替事業、学校給食センター建築事業等に取り組んできました。また、小川中学校の建替えにつきましても、検討委員会での協議を経て、早速2月から実質的な設計に入りま

す。3年、4年で新しい校舎、体育館、プール等全て新しく整備をいたします。

こういったハードの整備だけでなく、ソフト面にも力を入れて取り組んでおります。特にICT環境整備につきましては、ICT機器の導入だけでなく、先生方の支援や、児童生徒の学力向上のため、ベネッセと包括連携協定を結び、ICT支援員の学校配置、英語4技能検定GTECの実施など、ソフト事業を重視した取組も行っております。

本日は先般の全国学力・学習状況調査の結果や、ただ今申し上げました小学校5年生以上が受けたGTECの検定結果並びに県教育庁から熊本の学び推進プランの概要版が示されましたので、学力向上対策について協議していただくことにしております。皆様の忌憚りの無い意見を賜りますようお願い申し上げまして、簡単ではございますが開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

<教育総務課長>

ありがとうございました。次に協議に入りますが、宇城市総合教育会議要綱第4条第1項の規定により、市長が会議の議長となりますことから、協議事項につきましては市長に進行をお願いいたします。よろしく申し上げます。

<市長>

はい。それでは要綱に基づきまして議長を務めさせていただきますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

早速、協議事項に入ります。(1)宇城市学力向上対策についてですが、2つに分けて御協議いただきます。まず、学力調査等の結果について、事務局、説明してください。

<中川指導主事>

宇城市小中学校児童生徒の学力の結果について申し上げます。1ページを御覧ください。まず、4月に実施されました小学校6年生、中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査の結果についてでございます。正答率が年度ごとに違いますので、県平均、全国平均との差で示しております。差が無い場合は赤い0の線が基準線となっております。それよりも上でしたら宇城市の方が高い、それより下でしたら宇城市の方が低かったという事を表しております。平成28年度は熊本地震により未実施ですので、折れ線グラフが切れております。令和元年度はそれまで実施されましたA基礎の問題、B活用の問題を混合されております。したがって、推移として令和元年度はAと結んでおります。小学校の国語、算数の結果を見ますと、下降傾向でございます。ただ、国語、算数共に全国平均と同等ということが分かるかと思っております。続いて、2ページの中学校3年生を御覧ください。中学校3年生は国語、数学、英語で

す。英語につきましては令和元年度のみ実施をされております。話すことにつきましては実施しておりますが、不備もあつたりして、参考値として、この結果からは除外されております。国語、数学、英語を見てお分かりになるとと思いますが、基準の赤い線が一番上に来ております。それよりも下であるというところで、全国平均よりも低いという事が分かると思います。この結果を受けまして、各学校で授業改善にしっかりと取り組んでいただいたところでございます。

続いて、11月に実施されました県学力・学習状況調査について説明します。小学校は3年以上、中学校は1,2年生です。1ページを御覧ください。令和元年度から県教委が「県学力・学習状況調査」と名称を変更いたしました。そして、業者委託となったため全国平均も出ることになりました。小学校5年、6年の学力調査ですが、経年変化で見ると若干下降気味ではございますが、県平均を維持している、同等であるというところでございます。全国学力・学習状況調査と比べると、下降傾向の波がやや収まったかなというようなどころでございます。続いて中学校1,2年生です。3ページを御覧ください。全国学力・学習状況調査と違ひまして、赤い基準線が丁度真ん中の方に来ております。学年は違ひますが、令和元年度を見てみますと、上昇傾向、改善傾向にあるという事が伺えるかと思ひます。特に中学校2年生の英語につきましては、県よりも3.2ポイント高いという結果が出ております。

続いて、GTEC英語4技能検定について説明いたします。別添の資料を御覧ください。中学校2年生、3年生の結果をお示ししております。これは840点満点を得点化したスコアから分類をされた表でございます。左側にCEFRという基準がございますが、これが外国語のコミュニケーション能力を表す指標で、欧米の国際標準規格となっております。これまで実用英語技能検定、所謂「英検」と変わりました、このCEFRを文科省も基準としております。その横にCEFR-Jというものがございます。これはCEFRをベースに日本の英語教育での利用を目的に構築されました。到達度の指標です。更に細分化されているというところでございます。熊本県の目標はCEFR-JではA1、レベル5、50%ということにしておりました。ここで見ていきますとCEFR-J A1.1は累積でいきますと450人中、354人がCEFR-J A1レベル以上という事で78.7%、県の目標を十分達成をしております。その上のCEFR A1.2、ベネッセが中学校3年生の出口としてはこれくらいを目標にした方がいいだろうという推奨のところですが、これも58.7%というようなどころになっております。また、高いところになりますとCEFR-J A2.2のところには1人ございます。これは、海外の高校の授業に参加できるレベルの生徒がいるということです。しかしながらPre-A1というところに450人中96人ということで、まだA1レベルにまでは達していないということで、これは21.3%に上っております。こちらも授業改善の課題という部分になります。ちなみ

に中2の方は、このPre-A1が28.8%というところです。続きまして、4技能別の平均スコアを御覧ください。読む、聞く、書く、話すが4技能でございます。ここで課題となっておりますのが、点線で囲みました「聞く」でございます。ベネッセの公立の平均よりやや低いというところです。また、「書く」という技能は中3では上回っております。中2では「読む」という技能が上回っております。こういう結果が出ています。これが英語技能検定の結果でございます。

次に、資料5ページを御覧ください。11月に行われました県学力・学習状況調査質問紙調査結果抜粋でございます。市町村の所が宇城市の結果となります。家庭学習、授業に絞って抜粋させていただきました。小学校6年生と中学校2年生共に、「自分で計画を立てていますか」「授業の予習や復習をしていますか」の部分は全国平均と比べて、低い結果という風になっております。「好きな教科や授業がありますか」「学校で学んだことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか。」という部分につきましては、「まあまあ好き」「たぶん役立つ」まで肯定的な評価を入れたら、高い割合ではございますが、全国・県よりもやや低い割合でした。続いて7ページを御覧ください。家庭学習の時間です。小学校6年生では1時間以上学習している児童の割合は、全国では69%になりますが、宇城市では81.1%で、学習時間は非常に増加をしております。中学校2年生も同じように、2時間以上学習している生徒は、全国では38.5%、宇城市は43.7%。共に宇城市では学習時間が長くなっています。先ほどの質問紙の結果と併せて見ますと、学習時間は増加していますが、自ら学ぶ態度の育成、学ぶ意義、計画を立てた学習習慣という事が課題となったと思っております。以上でございます。

<市長>

ただ今、事務局から説明がありました、本年度実施された学力調査の結果について皆さんの忌憚りの無い意見を頂きたいと思っております。何かありませんか。

<村田委員>

先日の県の教育委員大会の時にも、県教育庁も下降傾向、そして低いということで危機感を持っておられたように思います。ここ何年間か特に中学校の方が下降傾向という事で、教育事務所の方もかなり気にしておられます。解決に向けて色々な努力されておられますが、そういう傾向が宇城市としてもあるということが言えるわけですね。県の方では地域間格差ということと、学校以外での家庭学習時間の少なさ、そういう事を課題として挙げられましたが、宇城市教育委員会事務局としてどういう風に課題を整理しておられるのかと思います。整理してあれば、お話しいただけるとありがたいです。

<中川指導主事>

家庭学習の時間につきましては、それも宇城市の課題として宇城市小中一貫教育推進会議と宇城市学力向上プロジェクトで、それぞれの中学校ブロックで共通の具体的な取組をもって、取り組んでまいりました。先ほども申しましたように、11月の質問紙調査の結果を踏まえた部分で、家庭学習の時間は延びているところです。また、中学校の方も県学力調査でやや改善傾向に向かっているというところで、授業改善の意識の高まりが非常にみられるかと思っております。授業改善につきましても、各中学校ブロックで連携の授業研や、合同研修会等も含めて進めているところでございます。

<村田委員>

授業改善の成果が出てきているのではないかという捉え方でいいわけですね。

<中川指導主事>

はい。さらに推進していく部分は必要かと思えます。

<市長>

他にございませんか。

<村田委員>

授業改善という部分が一番大事ではないかと思うのですが、教育委員会として学校の先生方に促すだけではなくて色々な施策があるのではないかなと思うんですよね。今言われた学力向上プロジェクトを市としてやっておられますよね。あるいは学校訪問、あるいは教育審議員の参観授業等、色々なことがされていると思いますので、学力向上に向けてこういうことをやっているという部分を何点か挙げていただければ分かりやすいのではないかと思います。

<中川指導主事>

宇城市の学力向上プロジェクトにつきましては、宇城地区の学力向上対策と連動しまして、授業改善の中では教育事務所が示しております「わかる、楽しい授業づくり 5つの心得」の心得3の「じっくり考え」「はっきり表現」させるという部分に特化して、各ブロックで取り組んでいただいております。もう一つの柱が家庭学習です。そういう部分の取組でございます。学校教育審議員の先生方も授業づくり5つの心得をもとに指導を行っていただいております。

<市長>

小学生より中学生の方が学力の低下が大きいというのは、宇土高校、松橋高校の定員割れも大きいものなんでしょうか。

<教育長>

二極化はやはり見えてきていますね。

<市長>

2, 30年前、小国の方で友達が教員をしていて、あちらはその頃から既に定員割れで。すると、その中学校の1番、2番が勉強するかしないかで、あとは皆ゆっくりしていて、ということを少し聞いたことがあります。そういう傾向が、この宇城圏域でも起きているのかなあと思ったものですから。

今は熊本市内への希望が多いのですか？宇土高校より第一に行くという傾向があるということですが、本当ですか？

<教育長>

宇土高校や鹿本高校辺りが、そちらに向かないで市内の方を向いていて、ですから第一高校が今、人気があるんですよ。

<村田委員>

一つは、高校の学区が熊本市内とこちらと一緒にした関係があるのではないかと思います。

宇城市から宇土中へはどれくらい行きますか？

<志水指導主事>

数字については現在のところ、把握はしていません。

<村田委員>

宇土中に行く、あるいは私立中学校に行くという事があるから中学校の平均が落ちるといような事も考えられるのではないかと思います。

<教育長>

今年の6年生が松橋中学校に入学するところで、定数を確認しているところでは20人ちょっとは宇土中学もしくは私立中学に進学予定で、その合否が確定しないと定数が確定しないというような話は、校長先生がされていました。するとどうしても平均が落ちてしまうという傾向が考察できるということですよ。

玉名高校が定数を割れたので、要するに玉名中学校に行く子がいなくなって、普通に玉名市から受ければ通るとい、学力の低下につながっている部分はあるといような事が新聞等に載っていました。

<市長>

宇土中学校の生徒は、入試に関係無く宇土高校に入学できるわけですね。ちなみに宇土中学校の倍率は分かりますか？

<教育長>

1. 2倍です。玉名が1.06倍くらいでしたでしょうか。八代が一番多くて2倍ちょっと。

<市長>

八代高校が定員割れだそうですね。

<教育長>

何とかそれでフォロー出来ているようですね。クラス減になっていますけれど。

<市長>

定員割れだと、地元の中学生も気合入りませんよね。

<教育長>

鹿本高校も全盛期の半分しかいないと言っていました。

<市長>

松橋高校が半分でしょ？

<教育長>

半分です。

<市長>

ちなみに宇城市役所の部長10人の内、9人は宇土高校です。

他にご質問が無いようでしたら、学力調査等の結果については終了したいと思います。

次に、熊本の学び推進プランについて、事務局より説明をお願いします。

<教育総務課長>

熊本の学び推進プランの内容を簡単に御説明いたします。資料8ページになります。8ページの下段に記載してありますが、本プランは平成31年4月に熊本の学び総合構想会議からの提言を受け、県教育委員会が策定する義務教育段階における学力向上に関する計画でございますので、各学校において本プラ

ンを活用し、それぞれの地域の実情に応じ「熊本の学び」に取り組むものでございます。

9ページをお願いします。ここでは「熊本の学び」の理念と、熊本の未来の創り手となる子供たちに期待する学びの提言が示されています。県の教育委員会ではこの「熊本の学び」の理念と3つの提言が実現できるよう、推進プランの基本方針を次の4つに整理し取組を推進していくこととなります。4つの基本方針は、資料に記載のとおりでございます。この4つの基本方針を取り組んでいく上で、本推進プランで大切にされているのが「五者」という言葉となります。これは子供たちの学びを学校だけでなく、家庭、地域に加えまして、子供と行政を含めた五者で、連携・協働して一体的に取り組んでいく事が重要視されています。

次に10ページをお願いします。ここでは、方針1を踏まえカリキュラム・マネジメントの推進ポイントについて重点事項を3点挙げられています。重点1では、全ての教職員が連携・協働しあって、子供たちに育成を目指す資質・能力の設定ポイントについて記載されています。また、重点2では分かりやすいフレーズで、五者で共有する事。重点3では、定期的に振り返り、教育活動の更なる充実につなげるための学校評価の在り方について示されています。11ページから13ページには、子供たちを「学びの主体」として育てるための授業改善のあり方について述べられています。重点1では、子供のわくわくが連続し、「分かった」「できた」「もっとやってみよう」という姿が生まれる授業づくりのポイントについて述べられています。ポイント1は、単元のデザインの工夫について。ポイント2から4は、学習過程の沿った授業づくりのポイントが示されています。また、学びの深まりのために主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用を図る工夫を6点示されており。12ページの重点2では、「単元のゴールの姿」に向けて「単元・題材のまとまり」で授業を構成するために、「学習構想案」を提案し、大切にしていきたい3項目について述べられています。ここでいう学習構想案とは、これまでの一般的な学習指導案の項目・内容に、朱書きで書かれている3点を加えたものです。一つ目は、単元終了時の子供の姿。二つ目が、単元を通した学習課題。三つ目は、単元で働かせる見方・考え方です。これらを、大切にしたい3項目とされています。ここで示されています学習構想案は、あくまでも推奨モデルでございますので、各学校で研究を深め、参考として取り入れてもらいたいという事になります。13ページを御覧ください。重点3では、総合的な学習の時間の充実。重点4では、学級経営の充実について記載されています。

14ページでは、重点1の前段でありますように、今年度から新たな形でスタートした県学力・学習状況調査について述べられています。今年度の調査は課題改善や、更なる学習向上に取り組むことのできるシステムにしてあり、質問紙調査を充実させてございますので、子供たちの学習状況を、学習習慣や生活習慣との相関から分析できます。重点1では、県学力・学習状況調査の教師の授業のデ

ザインにつながるポイントを。重点2では、子供が自らの学びに活用するポイント等が示されています。15ページでは家庭学習の重要性について述べられています。県のみならず、本市におきましても課題の一つに家庭学習の時間が挙げられます。そこで、重点1では学習習慣形成の素地となる環境づくりのための、五者のそれぞれの役割を示されています。また、重点2では子どもが取り組む家庭学習の充実について説明されています。今後、学校と家庭が連携し、子供たちの学習習慣形成を促す取組を推進していく事になっています。以上が「熊本の学び推進プラン」の概要になります。今後、本市においては次年度から本プランの周知や活用を図り、それぞれの地域や学校の特色や実情に応じた熊本の学びに取り組み、宇城市の方針や具体策を検討していくという事になります。説明は以上でございます。

<市長>

事務局から説明がありましたので、委員の皆様の意見を頂きたいと思います。よろしく申し上げます。

<佐伯委員>

先日の教育委員大会で、今説明されたものを一覧表にまとめたような資料が作ってありましたが、この中で熊本県の学力・学習状況調査というのが令和元年に新たに実施されていきました。以前までは、ゆうチャレンジという熊本県の学力調査だったのですが、民間の力を活用して、民間委託をして、新たに今年度から実施されているというのが一番特徴的だなと思いました。実施した結果が各学校、委員会に届いているということで、その内容を見ますと、各学校に届いている内容は、子供たちの課題解決のために何を学ぶか、どのように学ぶかということろまで、学校が指導できるような資料として渡されている。また、子供一人一人には結果に応じて、こういうことを勉強したらいいですよというようなアドバイス、それからWeb上ですが課題解決のためのプリントが用意されているというようなことです。私も学校現場で、ゆうチャレンジや色々な学力テストをしてきましたが、新たな画期的な取組ではないかと思えますし、こういうものを活用しない手はないなと思ったところです。ですから、宇城市の教育委員会としても、こういう県の学力調査を十分活用して、各学校が本当に力を入れて対策を取るような、そういう支援という部分がこれから重要ではないかと思っているところです。

<市長>

ベネッセとの関連性は無いんですか。

<教育総務課長>

学力向上対策としては、行政の取組としましてICTの機器を導入しております。そのICT機器でベネッセのソフトを使った学習が、2月1日から本格的に生徒が使える状況になりましたので、行政側の施策としては今後そちらで進めていきたいと思っております。

<村田委員>

確か、持ち帰って家庭学習にも使えるという話でしたよね。

<教育総務課長>

はい、使えます。

<市長>

ベネッセにはかなり高い委託料を払っていますので、その辺の追跡調査はしっかりして、促すところは促していただいて。

<教育長>

積極的に使って行こうと思います。

<市長>

引き続き、来年度は小学3年生以上にタブレット配置が出来ないか頑張ってみようかと思っているのですが。

<佐伯委員>

これを継続することで、学力向上につながっていくと思っております。

<市長>

1台 13万円ですからね。

<藤田委員>

学力充実も長い目で見れば、重点4に挙げてある学級づくり、学校づくりが一番の土台だと思います。小学校は特に集団の力が大きいですよ。どういう学級をつくっていくのか、それによって学習意欲や生活態度がかなり変わってきます。ハードの充実と共に、熊本の教師の心がけ等も十分に指導されると思いますが、それらを両輪として学校づくり・学級づくりという意識を校長先生、担任等に持っていただく。教員の経験のある指導主事の先生方もお分かりかと思いますが、どういう学級づくりをするのか、どういう学校づくりをするのかによって、子どもの意識、学習意欲が変わってくるということを十分経験され

ていると思います。授業改善については指導案等もありますが、併せて土台づくりを。学力充実に限らず、目標を達成するためには、そこも合わせてポイントを出しながら、長い意味での子供たちの学習意欲の向上、生活意欲の向上にも力を入れていただければと感じております。

<志水指導主事>

ありがとうございました。おっしゃる通りだと思います。宇城市の学校訪問、審議員訪問の次年度の方向性も、今年度末にしっかり話し合っ、藤田委員のご意見も含めて、所謂5つの心得等の授業テクニックの部分と併せて学級指導、学級づくり等の指導が必要であるという事を協議して進めて行きます。

<市長>

学校訪問や、審議員の授業を見る視点というものの中に、そういう5つの心得や宇城市独自のものを入れるというような事もできるのではないかと思います。そういうものを入れておけば指導も的確に出来ていくのではないかと思います。

<志水指導主事>

今の件ですが、学校訪問の視点を作っておりますし、審議員は参観した授業者一人一人に対して、一時間ごとの指導をペーパーで返しております。その辺りにも視点を加えられないかという事で協議をしたいと思っております。ありがとうございます。

<市長>

他に御意見ございませんか。

<佐伯委員>

家庭学習の定着といいますか、自主的、主体的に自分で計画して時間までどのくらいやろうという事を、自主性を重んじながら子供たちに決めさせるというのがベストだと思います。

昨年の学校訪問の中で丁度良い授業を見せていただいたので紹介をしたいと思っております。ある小学校で、なりたい自分になる、そして家庭学習について考えようという授業がありました。こういう授業を他の学校でもやっていくと、家庭学習の充実につながるのではないかと思います。その内容は、まずラグビーの日本代表の福岡選手の事を写真入りで黒板に貼って紹介されて、さあ子供たちは家庭学習をどうしようかという頑張りの決意を聞くような感じでした。目標としては家庭学習の仕方を考えて、学習することの価値に気付き、主体的に学習する意欲や態度を養うというような授業がなされていまして。こういう授業をすると、子

供たちも頑張っ勉強をするだろうなという印象を持ちました。中学校でも一コマだけそういう授業があったというように記憶をしております。そういう授業を各学校で増やすような手立てが出来ればなと思ったところです。細かいところで申し訳ありませんが。

<市長>

はい。他にありませんか。御意見が無いようでしたら、宇城市学力向上対策についてはこれで終了したいと思います。ありがとうございました。

次に、その他でございます。事務局から何かありますか。

<志水指導主事>

はい、御説明いたします。学力向上対策の他にも、宇城市の小中学校の抱える喫緊の課題の中から、本日は特に2点、説明をさせていただきます。1点目が、不登校児童生徒数の増加。2点目が、特別な支援を要する児童生徒数の増加です。

それではまず1点目について、本日、1月末の集計結果が調いましたので、お手元に資料を配布しております。令和元年度不登校児童生徒数の推移について、資料を御覧ください。上段が小学校です。1月末の時点で不登校児童数は16名。不登校が改善された児童数は累計4名となっております。この16名の内、7名は前年度も不登校だった児童、つまり本年度新規不登校の児童は9名となります。下段を御覧ください。中学校です。1月末の時点での不登校の生徒数は64名。不登校改善の生徒は1月末まで累計で7名となっております。64名の内、26名が前年度からの不登校生徒、本年度新規不登校生徒は38名となります。現在、県全体においても不登校児童生徒数が増加傾向にあり、県全体の課題でもあります。本市におきましても、特に中学校において増加している状況であります。現在、各学校におかれましては日々の家庭訪問やSC、SSW等の関係機関との連携など、粘り強い不登校児童生徒数減少に向けた自立支援、学力支援を行っていただいております。なお、1月末時点での出現率は小学校で0.5%、中学校で4.2%となっております。

続きまして、資料17ページをご覧ください。特別な支援を要する児童生徒数の増加についてでございます。宇城市立小・中学校特別支援学級在籍者数の推移です。御覧のとおり、令和2年度は特別支援学級在籍が300名となる予定で、全体の6.4%となります。障害種別で見ますと、自閉症・情緒障害学級在籍の児童生徒が増えているという状況です。また、本資料は特別支援学級在籍数でありまして、通常学級においても特別な支援を要する児童生徒が在籍しております。なお、通常学級に在籍しつつ、それぞれの障害に合わせた学習上、生活上の困難の回復に向けた指導を受ける所謂「通級指導教室」を受けている児童生徒数は現在小学校で68名、中学校で20名、計88名。この子供たちは通常学級でござ

います。なお、通級指導を行っている学校というのは全ての学校ではなく、小学校では4校、中学校では1校、宇城市全体では5校で実施をしている状況でございます。学校におかれましては、学校総体としてこの特別支援教育の充実に向けて、喫緊の課題として重点的に取り組まれているという状況でありまして、本市における特別支援教育支援員が子供たちに寄り添い、個別に指導、支援を当たっており、大きな力となっております。説明は以上です。

<市長>

特別支援学級に在籍する児童生徒数という事で、普通教室に入っている子供さんはこの中には入っていないのですか。

<志水指導主事>

入っておりません。

<市長>

入っていない。特別支援学級だけの子供さんがこれだけ増えているわけですか。毎年この割合ですか。平成26年の2倍超。

<志水指導主事>

その様な状況です。

<村田委員>

300名の中に、通級指導教室は入っていませんよね。

<志水指導主事>

入っておりません。

<市長>

通級とは何ですか？

<教育長>

通常学級に在籍して、そこから抜き出して別の所で特別な授業をするという形です。

<志水指導主事>

その児童に合わせた、例えば言語障害のある子供は一時間だけ取り出して言語訓練等をしたり、コミュニケーションが苦手な子供はその子供だけ取り出してコミュニケーションの訓練をしたり等の指導をする所です。

<市長>

宇城市には支援学校が3つありますよね。他の市町村よりかなり恵まれている方ですよね。そちらの方に行かれている子供さんもいらっしゃるんですよね。この6.4%という割合は、他の市町村はもっと高いわけですか？

<志水指導主事>

現時点では分かりません、申し訳ありません。

<村田委員>

増えているのは確かですね。

<藤田委員>

県立の支援学校には、宇城に限らず全県から来ます。私が三角小学校でお世話になった時には三角からは一人だけ中学部の方に入りました。他は、小学校で特別支援学級にいた子供はそのまま中学校に上がるというという事が多かったですし、今でもそうではないかと思えます。

<市長>

じゃあやはり、現場の要望は強いはずですね。

<村田委員>

特にここ数年は、自閉症、発達障害の子供の数がものすごく増えてきておりますね。

<市長>

自閉症は81名から186名ですから、この6年で3倍ですよね。

<佐伯委員>

こういう話が出て、支援員の方を増やして頂いていますよね。

<市長>

はい。そしてまた今年も増員要求でしたね。去年は5人程度増やしたのでしたよね。

<教育長>

去年は7人です。

<市長>

それでもまだ全然足りていないので。何とも言えないところですよ。

支援学級ではなくて、普通教室でという希望のお子さんも増えているのですか？

<志水指導主事>

そういう希望の子どもさん、親御さんも増えております。

<教育長>

本人に自立にとってどちらがいいのかという事を、手前の支援委員会で熟議していただくのですが、子供の意思はまだなかなか無いので保護者の皆さんの意思で方向性が変わっていきます。

<市長>

他にご意見ございませんでしょうか。

<教育長>

市長、どこかの時点で減るということは無いと思います。

<市長>

6年で3倍というのはすごいなあ。

それでは協議事項につきましてはこれで終了したいと思います。ここからは、折角の機会ですので、皆様と意見交換ができたと思います。忌憚りの無い御意見をお聞かせください。

<教育総務課長>

先ほどの特別支援教育についてお話がありましたが、来年度から特別支援教育の相談員を一人雇用する予定にしております。主な業務は、支援を要する子供の保護者に対して、保育園に行ったり、学校現場で相談業務を行ったりします。ハローワークに応募をかけた上で、認定心理士の方お一人から応募があったという事です。これから面接を行って、採用の可否を決めたいと思います。来年度から一人、相談員を雇います。

<教育長>

その活用については、アドバイスを頂ければと思います。効率的・効果的な運用が必要だと思っております。

<村田委員>

保育園、幼稚園の頃からの対応が必要になると思いますので、かなり違うと思います。

<教育長>

そのこのフィルターの充実ということで、市長にお願いをして相談員の配置をしていただきました。

<村田委員>

人材もなかなかいないですね。学校の先生方もかなり頑張られておりますが、なかなか。

<藤田委員>

不登校について今年は64名という事ですが、昨年度は12月の段階で38名いたのですよね。中学3年生の子供たちの進学はどうなんでしょうか。3年生で10名いたとすれば、その子供たちの進学先というのは。高校に行かないのか、進学するのか、そういう傾向としてはどうですか。

<中川指導主事>

現在、追跡調査の結果は把握しておりませんが、各学校進路に向けた取組というのはされており、例えばフリースクールに通いながら私立の高校等をすすめられているという事もございます。

<市長>

他にございませんか。

無いようでしたらこれで終了したいと思います。事務局にお返しします。

<教育総務課長>

それではこれで令和元年度宇城市総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。